

2013年度●テーマ展示 9月

# 衣装をつける！

—もう一つのオペラの楽しみ—

衣装は現実と架空という二つの空間を  
行き来する鍵です。

一時(いつとき)の架空の世界に浸るために  
なくてはならないもの・・・



企画・構成：長谷川由美子（国立音楽大学附属図書館特別資料部）

構成補助：柄田明美（国立音楽大学附属図書館雑誌部）

開催期間：2013年8月29日～9月28日

開催場所：図書館ブラウジングルーム

（イラストの出典：Britannica Image Quest）

# 「衣装をつけろ！」

## —もう一つのオペラの楽しみ—

### ようこそオペラの世界へ

今回の展示は、国立音楽大学附属図書館所蔵の貴重書の中から、皆さんにお見せする機会になかなか恵まれないオペラの衣装に関する書籍や衣装プレート、オペラの一場面が描かれた楽譜を中心にお届けします。

### 目次

I	オペラの衣装図 .....	2
II	楽譜に描かれたオペラの場面 .....	6
III	パネル展示 .....	8
IV	参考 —オペラと衣装に関する所蔵資料— .....	10

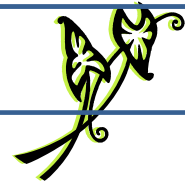
※多くの図版・挿絵を紹介できるよう、一部の資料については、会期を次の4期に分けて展示替えを行います。展示替えを行う資料については、期ごとのテーマや図版・挿絵タイトルを記載してあります。

第1期：8/29（木）～9/7（土） 第2期：9/9（月）～14（土）  
第3期：9/16（月）～21（土） 第4期：9/24（火）～28（土）

※各資料には請求記号が記載してありますが、“S”がついている資料は貴重書のため原本の閲覧はできません。マイクロフィルム（”M” O-○○○）またはマイクロフィッシュ（Mfc○○○○）を利用してください。



## I オペラの衣装図



### 【1】ピカソの《カルメン・デ・カルメン》

Picasso, Le Carmen des Carmen. Paris, Editieurs Français Réunis, 1964

請求記号●S0-570 (M7-693)

展示替え

ピカソは1948年から49年にかけて積極的に書物への挿絵の仕事を行った。この『カルメン・デ・カルメン』もその一つで、ビゼーのオペラではなく、メリメの原作をテキストにした豪華絵本である。女性や男性、それに牛の顔をモチーフにした版画や、墨色あるいは彩色された絵が入るが、小説の筋に従って挿入されたのではない。少なからずオペラの《カルメン》が挿図に影響を与えたのではないかと思われる。ちなみにオペラは4つの章に分かれたこの小説の一番長い第3章を下敷きにしている。

1948年に一度出版されたのち、1964年に再度出版された。テキストに組み込まれた版画とは別に、彩色付のリトグラフ一点と墨色によるエッチングがつき、最後にやわらかい赤い色鉛筆でピカソのサインが入っている。

#### 第1期：カルメンの眼

原作には何度もカルメンの眼についての描写が出てくる。

『切れの長いすばらしい眼…』、『官能的で同時に凶暴な表情を湛えて…』、『野性的な眼つきで…』 ※

#### 第2期：優しいカルメン

オペラを見る限りはあまり感じられないが、メリメの原作にはカルメンがホセへ優しく接したり、献身的にホセに尽くす場面が少なからずある。

『騎兵の涙ね』、『大ばかのカナリアさん』、『彼女はひと時も私のそばを離れませんでした。ろくろく眠りもしませんでした。』 ※

#### 第3期：牛と闘牛士

原作ではあまり大きな地位を与えられていない闘牛士が、この絵本では何度も描かれ、牛も大事なモチーフとして登場する。

#### 第4期：盛装したカルメン

原作では着飾ったカルメンが、2度突然にホセの前に現れ、そのたびに彼の気持ちを波立たせる。闘牛場でのカルメンの服装についての描写はないが、心惹かれる闘牛士ルカスの試合を見に行っているのだから、ここもまた盛装したカルメンと考えられるだろう。この衣装のまま、カルメンはホセの手で殺されてしまう。

『金ラメのドレスを着込み、金ラメ入りの靴を履き…肩にショールを掛け、金の櫛を挿し、全身これ絹づくめといった格好でした。ショールを脱ぎ、それを足許に放り投げて…』 ※

※ 「カルメン；コロンバノプロスペル・メリメ〔著〕；平岡篤頼訳。講談社、2000」より一部引用

## 【2】《蝶々夫人》の衣装図一式

**Madame Butterfly. Costume design by Attilio Comelli 請求記号●S0-568 (M7-691)**

展示替え

水彩画による衣装プレートやスケッチ、公演のメモ等から成る。衣装デザインはイタリア人のアティリオ・コメリで、彼は1890年代からロイヤル・オペラ・ハウスで衣装デザイナーとして活躍し、《ラ・ボエーム》、《蝶々夫人》、《西武の娘》、《パルシファル》のロンドン初演の衣装を担当した。

デザインにあたって彼は何週間かを大英博物館や南ケンジントン博物館で過ごし、必要とあれば兄弟をパリやベルリンに赴かせ、ロンドンで手に入らない情報の収集に努めたという。

### 第1期：蝶々夫人の衣装図

蝶々夫人の衣装は6枚（5種類）あるが、初演当時の衣装とは異なっている。蝶々夫人役としてマギー・テイトの名前が挙がっている衣装図が2枚あり、薄紫色の着物の衣装図の裏側にコメリのサインがある。この図だけがオリジナルである。濃い紫の衣装図の裏には1920,1921 コヴェントガーデン、再演1922年の文字が読めることから、2枚の衣装図はこれらの公演で使われたと思われる。なお、衣装図はテイトの面影をよく映している。他の4枚は別のソプラノの為の衣装図であろう。名前の指定はない。メモとしてシャフテスブルク劇場で公演された《蝶々夫人》配役一覧が挟み込んであり、そこにロジーナ・バックマンの名が記されている。彼女は蝶々夫人を得意としたソプラノであるが、キャリアの最初はスズキの役も歌っている。

1915年の5月と6月に三浦環がロンドンのオペラハウスで《蝶々夫人》を歌っているが、この公演の主演級以外の衣装にこれらが使われたのかもしれない。

### 第2期：ピンカートンの衣装図

衣装図一式に含まれるピンカートンの衣装はアメリカ海軍の制服を詳細に鉛筆でスケッチした2枚、実際の海軍士官の制服の写真を含み、コメリの衣装デザインの過程を垣間見せてくれる。

### 第3-4期：その他の人たちの衣装図

展示した水彩画の一部（スズキ、親戚の男たち、兵士、下男、ゴロー、ヤクシデ、子供、僧都、役人、戸籍係）は1905年のロンドン初演当時のものである。コメリのスタッフがオリジナルを忠実に模写した。日本人の目から見ても、衣装の正確な再現に驚きを覚えるが、1900年から1902年まで、川上音二郎と貞奴は欧州公演ツアーを行っている。その遺産が何等かの影響を与えたのかもしれない。

## 【3】シュトラウスの《ナクソス島のアリアドネ》

**Ariadne auf Naxos.: Oper in einem Aufzuge von Hofmansthal. Music von Richard Strauss zu spielen nach dem "Bürger als Edelmann" des Molière. Skizzen für die Kostüme und Dekorationen von E. Stern. Berlin, Adolph Fürstner, 1912**

請求記号●S0-598 (Mなし)

展示替え

リヒャルト・シュトラウスが作曲した「ナクソス島のアリアドネ」の衣装図。「ナクソス島のアリアドネ」は最初、モリエールの喜劇「町人貴族」の劇中劇として構想され、1912年に初演された。しかし、この試みは成功とはいえなかった。まず、上演時間が長すぎた。また、劇の中にオペラを入れこんだため、劇に興味のある観客はオペラを聞かず、その反対にオペラを目指した観客は劇を見ようとしなかった。その後何回か再演されたが、シュトラウスはこのオペラをモリエールの劇から切り離し、新たな稿を起した。改作は1916年に完成、現在上演されるような形となる。

この衣装図は、1916年の改作版用ではなく、モリエールの芝居の中に組み込まれた初演用で、44枚の衣装図、5枚の舞台図、5枚の小道具図の合計54枚から成る。

衣装デザインはエルンスト・シュテルンによる。彼は1876年ブカレスト生まれの舞台装置家、衣装デザイナー、グラフィックデザイナーで、ミュンヘンの美術学校で学んだあと、新聞の挿絵画家になった。ミュンヘン分離派と演劇協会の一員となり、1905年ベルリンに移った。1906年から1921年まで「ドイツ劇場」と契約し、90ものシナリオのデザイナーとして活躍した。

### 【3-1】 衣装図

第1期：音楽教師 / 音楽家たち

第2期：ツェルビネッタ / 作曲家

第3期：アリアドネ / ハレルキン

第4期：アリアドネ / バッカス

### 【3-2】 舞台図

第1-2期：オペラの始まる前

左は化粧するツェルビネッタと明かりを持つハレルキン、右は鏡を持つビリゲッラ

第3-4期：アリアドネの舞台 バッカスとアリアドネ

## 【4】 パリの大劇場の衣装と記録

**Costumes et annales des grands théâtres de Paris, accompagnées de notices intéressantes et curieuses. Paris, various publishers, 1786-1789. 8 vols.**

請求記号●S0-345 - S0-352 (M6-667~M6-668)

本書は、1786年から1789年にかけて週刊で発行された文芸新聞の集成である。同紙は、政治論者として知られたイリアール・ドーベルトゥイユによって創刊、刊行されたが、その半年あまり後に、劇評家、劇作家であるルヴァシェ・ド・シャルノワがその執筆、編集を引き継いだため、今日では後者の名とともに語られることが多い。

“*Costumes et annales des grands théâtres de Paris* (パリの大劇場の衣装と記録)”の各号の中心を占めるのは、一点の図版とこれに関連する批評、解説である。これらの図版には、当時の名歌手、名優たちが少なからず登場している。

展示個所は以下の通りである。

- ピッチニ作曲《ディドン》(1783年初演)のタイトルロールを演じるサン＝トゥベルティ嬢
- チレアのオペラ《アドリアナ・ルクヴルール》のモデルとなったアドリエヌ・ルクヴルール。アドリエヌは美貌と演技力を誇った女優で、時の権力者の愛人として多くの女性たちの嫉妬の対象となったが、毒殺されたのではなく、赤痢で死亡した。
- グルック作曲《アウリードのイフィゲニア》のタイトルロールを演じるサン＝トゥベルティ嬢
- 《三人の日本人》の衣装図。モーツァルトの《後宮からの誘拐》や《コシ・ファン・トゥッテ》で描かれる「異国趣味」は18世紀の芸術における潮流であるが、ファルベール・キンジェーが1787年に書いたこの劇もその一つであろう。
- 《アルミード》中のルノーを演じるルソー氏とその楽譜
- ローマの英雄、コリオランの衣装図。コリオランはシェークスピア劇《コリオレイナス》(日本でも蜷川幸雄の演出で2007年に上演)をはじめ、何度もドラマの主演として登場した。ベートーヴェンの《コリオラン序曲》はコリンの同名戯曲につけられた序曲である。

#### 【5】バルビエ描くドン・ジュアン

**George Barbier, vingt-cinq costumes pour le théâtre. Preface par Edmond Jaloux. Paris, Camille Bloch & Jules Meynial, 1927 請求記号●S0-569 (M7-692)**

フランスの挿絵画家であるバルビエによる衣装図集。バルビエは1882年生まれで、アール・デコ調の華麗なイラストレーションで知られる。バレエや演劇の衣装制作者としても有名である。

この本は1918年から22年までに制作されたデザインを集めたもの。展示個所はドン・ジュアンの衣装図であるが、モーツァルトのドン・ジョヴァンニではなく、「シラノ・ド・ベルジュラック」で知られたロスタンの「ドン・ジュアンの最後の夜」のためにデザインされた。

#### 【6】ボーマルシェの戯曲《狂おしき一日、あるいはフィガロの結婚》

**La Folle journée, ou Le mariage de Figaro. Comédie en cinq actes, en prose par M. de Beaumarchais. Paris, Ruault, 1785 請求記号●S0-572 (M7-873)** 展示替え

戯曲の初版。5枚の挿絵はサン・クエンタンの原画からリーナール、アルブー、リンジェが版画にしたもの。展示箇所は以下のとおり。

**第1期**：椅子に隠れたシュリュバンが伯爵に見つかる。左よりシュリュバン（ケルビーノ）、伯爵、シュザンヌ（スザンナ）、バジル（バジリオ）

**第2期**：妻の浮気を疑った伯爵が発見したのは小間使いのシュザンヌだった。  
左より伯爵夫人、伯爵、シュザンヌ（スザンナ）

**第3期**：逢引の手紙をそっと伯爵に渡すシュザンヌ。右手前がシュザンヌ、後ろが伯爵

**第4期**：四阿から現れた伯爵夫人に驚く伯爵。左から伯爵夫人、伯爵、シュザンヌ、  
左手前はフィガロ

## 【7】「ニーベルングの歌」の挿絵入り本

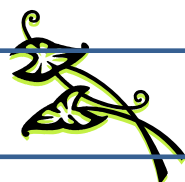
**Das Nibelungenlied. Uebersetzt von Gotthard Oswald Marbach. Mit Holzschnitten nach Originalzeichnungen von Eduard Bendemann und Julius Hübner.**

**Leipzig, Brüder Otto und Georg Wigand, 1840 請求記号●S0-587 (Mfc0668)**

「ニーベルングの歌」はワーグナーが楽劇「ニーベルングの指輪」を作曲する際の材料の一つとなったドイツの叙事詩である。前半の 20 歌章には私たちになじみのあるジークフリートやブリュンヒルデ、グンター、ハーゲン等の名が登場し、ジークムントやジークリンデの名も最初に登場する。ワーグナーも 1840 年に出版された本書を見た可能性はあるだろう。各歌章の最初には物語に関係する挿絵が挿入され、また、すべてのページは凝った飾り枠で囲まれている。

なお、画家のベンデマンとヒューブナーはともにデュッセルドルフの美術学校の同窓生で、ベンデマンの妹がヒューブナーと結婚したこともあり、共同で仕事をすることもあった。ともに作風は古典的で優雅である。二人とも作曲家シューマンとの交友でも知られている。特にベンデマンはシューマンと絵画について語りあったという。画家はシューマンの早世した息子エミールの名づけ親でもあった。シューマンの作品 66「東洋の絵」はベンデマン夫人リダに献呈されている。

展示箇所は死せるジークフリートを描いた口絵。左横はジークフリートの妻のクリームヒルト、右手前はハーゲン、その後ろはグンターで、上部左がグンターの妻ブリュンヒルデ、右はクリームヒルト。二人の間の三羽の鳥は、この叙事詩の悲劇を予感させるクリームヒルトの夢である。



## II 楽譜に描かれたオペラの場面



## 【8】モーツァルトの《ドン・ジョヴァンニ》 ヴォーカルスコア

**Don Giovanni / Wolfgang Amadeus Mozart ; lithographien von Hermann Ebers. München, Drei Masken, [1922] 請求記号●S10-935 (M3-570)** 展示替え

様々なサイズによる 25 枚のリトグラフ入りの楽譜で限定 200 部の内の 36 番目。ピアノ編曲はベルンハルト・パウムガルトナーである。リトグラファーのヘルマン・エバース (1881-1955) はライプツィヒ生まれの画家で、ミュンヘン美術学校で学ぶ。トーマス・マンやリルケと親しく交際した。25 の書籍にリトグラフを描いたが、その中でもメーリケの《旅の日のモーツァルト》と並んで、本書は名高い。

第 1 期：ドンナ・エルヴィラに「ご主人様が手に入れた女の数は・・・」とカタログの歌を歌うレポレッロ

第 2 期：ツェルリーナを誘うドン・ジョヴァンニ

第 3 期：セレナーデを歌うドン・ジョヴァンニ

第 4 期：地獄落ちのドン・ジョヴァンニ

### 【9】 マスネの《エスクラルモンド》 ヴォーカルスコア

**Esclarmonde : opera romanesque / poeme de M.M. Alfred Blau et Louis de Gramont ;  
musique de J. Massnet. Paris, Hartmann, [1889] 請求記号●S10-139 (M3-034)**

パリ万博の年である 1889 年に書かれたマスネのオペラ《エスクラルモンド》の口絵。同年に 91 回上演され、その後も再演が続いた。上演のポスターが 2 点残されている。

一つは初演の際の A. F. ゴルゲによるもの（参考図例 1）、もう一つは A. シュブラックによるもので、同じ衣装、同じポーズで描かれている。展示した口絵も同様であるが、画家 G. プレジール（あるいは G. プレザン）については不明。

楽譜はアール・ヌーヴォーの画家、ユージェーヌ・グラセットによる華麗なタイトルページを持つ。初演の演奏者や、内容一覧のページも同じ画家による装飾を持ち、世紀末の出版物にふさわしい、豪華な仕様である。楽譜はマスネのサイン入りである。なお、グラセットは他にもエスクラルモンドに基づいた作品がある。

### 【10】 ブルッフの《ローレイ》 ヴォーカルスコア

**Die Loreley : grosse romantische Oper : op. 16 / Dichtung von Emanuel Geibel ;  
vignette Musik von Max Bruch ; vollständiger Klavierauszug mit Text bearbeitet  
vom Componisten. Breslau, Leuckart, [1862] 請求記号●S10-832 (M3-563)**

作曲者自身によるヴォーカルスコア初版。恋人に裏切られた村娘が復讐のためにライン河から悪魔を呼び出し、魂を売る。岩に座って彼を待つヒロインはとっくに彼を許しているが運命は変えられない。

### 【11】 サン＝サーンスの《エチエンヌ・マルセル》 スコア

**Etienne Marcel : opéra en quatre actes / poème de Louis Gallet ; musique de C.  
Saint-Saëns. Paris, Durand, Schoenewerk, [1880] 請求記号●S11-128 (M4-421)**

エチエンヌ・マルセルは 14 世紀のフランスの市民指導者であり、パリ市長。ほとんど忘れられてしまったオペラだが、ドビュッシーが編曲した 2 台のピアノのための組曲で知られている。

展示したマルセルの画像はドラクロアの弟子で、戦争画の画家として知られるアルフォンス・ドゥ・ヌーヴィル(1836-1885)が描いた原画をイラストレーターのカスタヴ・フライポント(1849-1923)がエッチングにしたもの。タイトルページはワッペンをかたどったフレームに囲まれ、赤と青の装飾文字で記されている。タイトルロールを描いた口絵が付され、マーブル紙を使った製本は金箔で飾られているが、スコアとして出版された時には口絵もなく、製本もされていなかった。この楽譜は作曲者が自分のために作らせた特注本で、愛書家としても名高かったサン＝サーンスの書齋にあったものである。なお、サン＝サーンスはマルセルの画像からデザインされた蔵書票を作り、1880 年代に使っていたという。この楽譜のマルセル像は蔵書票ではなく、エッチングであるが、蔵書票の話は作曲者の思いが込められているようなエピソードである。



**【12】 プッチーニの《西部の娘》 ヴォーカルスコア**

**La Fanciulla del West : opera in tre atti (dal dramma di David Belasco) / musica di Giacomo Puccini. Milano, Ricordi, c1910 請求記号●S11-073 (M4-405)**

展示個所は第2幕の終盤、保安官ランスにいかさまポーカーで勝負を挑んだミニーが描かれる。楽譜は挿絵入りの表紙に続いて、プッチーニの写真があり、デザイン化されたタイトルページが置かれる。配役一覧や各幕のページ数の指示、ノート、リコルディ社の社章、ノート、各幕の解説のあと、楽譜が始まるが、それぞれのページともちいさな飾りを伴ったフレームで囲まれている。第一幕の冒頭にもデザイン化された文字によるタイトルが置かれている。裏表紙はリコルディ社の社章で飾られている。出版の後ろにデザイナーが隠れていることを思わせるしゃれたフォントや配置に満ちた楽譜である。

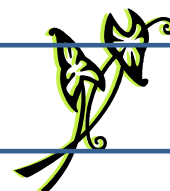
**【13】 スメタナの《接吻》 ヴォーカルスコア**

**Hubička : prostonárodní opera / B. Smetana. Praha, Urbánek, [1880]  
請求記号●S12-631 (Mなし)**

《接吻》はスメタナの民族風オペラで、チェコでは人気が高い。タイトルページはヒロインのヴェンドゥルカが、先妻の残した幼子を見ながら、自分がお母さんになる、と相手のルカーシュに告げる場面を描いた。この後、オペラは二人の頑固な性格ゆえのすったもんだを経て、めでたしめでたしとなる。



### III パネル展示



パネル展示している図1～12のオペラの衣装図や写真は、「IV 参考—オペラと衣装に関する所蔵資料」(p. 10～12)で紹介している No.1～31の図書からの出典です。かっこ内に「IV-〇〇」の形式で番号を記載付しています。

**【図1】**

- ・ ゴフィー、オクタヴィアン、ファーニナル、オックス男爵、マルシャリン、R. シュトラウス作曲《ばらの騎士》より (IV-29)

**【図2】**

- ・ 動物、侍女三、侍女二、蛇 (左上、右上、左下、右下) モーツァルト作曲《魔笛》より (IV-30)
- ・ 夜の女王 モーツァルト作曲《魔笛》より (IV-31)
- ・ パパゲーノとパパゲーナ モーツァルト作曲《魔笛》より (IV-25)

**【図3】**

- ・ ヴェーヌス (衣装1、衣装2) ワグナー作曲《タンホイザー》より (IV-30)
- ・ タンホイザー ワグナー作曲《タンホイザー》より (IV-30)

- 三人のノルン ワーグナー作曲《神々の黄昏》より (IV-25)
- ヴォータン ワーグナー作曲《ヴァルキューレ》より (IV-31)

【図4】

- ガラテ リュリ作曲《アシスとガラテ》より (IV-27)
- 穀物刈取り人 ラモー作曲《結婚の女神と愛神の祭り》より (IV-27)

【図5】

- エレクトラ R. シュトラウス作曲《エレクトラ》より (IV-31)
- フェリペ二世 ヴェルディ作曲《ドン・カルロ》より (IV-31)
- ネロ モンテヴェルディ作曲《ポッペアの戴冠》より (IV-31)

【図6】

- イーゴリ公 ボロディン作曲《イーゴリ公》より (IV-22)
- 料理人 ストラヴィンスキー作曲《夜鳴き鶯》より (IV-22)
- ワルプルギスの王妃とメフィストフェーレ グノー作曲《ファウスト》より (IV-19)

【図7】

- マリーナ ムソルグスキー作曲《ボリス・ゴドノフ》より (IV-31)
- ボリス・ゴドゥノフ ムソルグスキー作曲《ボリス・ゴドゥノフ》より (IV-30)

【図8】

- 椿姫 ヴェルディ作曲《椿姫》より (IV-30)
- つう 團伊玖磨作曲《夕鶴》より (IV-25)

【図9】

- 伯爵夫人 モーツァルト《フィガロの結婚》より (IV-31)
- メリザンド ドビュシー《ペレアスとメリザンド》より (IV-30)
- ノルマ ベッリーニ作曲《ノルマ》より (IV-30)

【図10】

- デリラ サン=サーンス作曲《サムソンとデリラ》より (IV-25)
- ルル ベルク《ルル》より (IV-31)

【図11】

- トゥーランドット プッチーニ作曲《トゥーランドット》より (IV-25、16)

【図12】

- 魔女ロジーナ フンパーディンク作曲《ヘンゼルとグレーテル》より (IV-25)
- エディプス王 ストラヴィンスキー作曲《エディプス王》より (IV-24)



## IV 参考 —オペラと衣装に関する所蔵資料—



以下にご紹介するのは、閲覧や貸出ができる図書館の所蔵資料です。

ぜひ本を開いて、パネルで展示されているオペラの登場人物を探してみてください！

### <服飾関係一般>

1. Le costume : les armes, les bijoux, la céramique, les ustensiles, outils, objets mobiliers, etc. chez les peuples anciens et moderne / dessinés et décrits par Frédéric Hottenroth. Paris : Guérinet, [18-?] 請求記号●J70-203
2. Abbigliamento e costume nella pittura italiana / [Introd., testi didascalici e annotazioni alle tavole di Ferruccia Cappi Bentivegna Roma : C. Bestetti, [1962-64] 請求記号●J3-086、J3-085
3. デザイナーのための西洋服装史 / 原田二郎著 東京 : 源流社, 1976 請求記号●J70-372
4. モードの歴史 : 古代オリエントから現代まで / R.ターナー・ウィルコックス著 ; 石山彰訳 東京 : 文化出版局, 1979 請求記号●J63-730
5. Costume of the classical world / [by] Marion Sichel London : Batsford, 1980 請求記号●J62-880
6. 西洋服装史 / 村上憲司著 大阪 : 創元社, 1983 請求記号●J70-371
7. History of children's costume / Marion Sichel. London : Batsford Academic and Educational Ltd, c1983 請求記号●J62-882
8. History of women's costume / Marion Sichel. London : Batsford Academic and Educational, 1984 請求記号●J62-881
9. History of men's costume / Marion Sichel. London : Batsford Academic and Educational, 1984 請求記号●J62-883
10. Costume of ancient Rome / David J. Symons ; drawings by Jack Cassin-Scott. New York : Chelsea House Publishers, c1987 請求記号●J62-889
11. Costume of Old Testament peoples / Philip J. Watson ; drawings by Jack Cassin-Scott. New York : Chelsea House, 1987 請求記号●J62-890
12. 西洋職人服飾図絵 : 17世紀のファンタスティック・コスチューム / 石山彰編著 東京 : 岩崎美術社, 1989 請求記号●J70-721
13. 中世イタリアの被服文化史 : コスチュームとファッションのルーツ / Cesare Vecellio [原著] ; 鶴野千鶴編著 坂出 : 鶴野千鶴, 2004 請求記号●J103-517
14. 装いのアーカイブズ : ヨーロッパの宮廷・騎士・農漁民・祝祭・伝統衣装 / 平井紀子著 東京 : 日外アソシエーツ, 2008 請求記号●J113-629

15. 世界の民族衣装文化図鑑. / パトリシア・リーフ・アナワルト著 ; 蔵持不三也監訳  
東京 : 柊風舎, 2011. 2 vols. 請求記号●R383/A-1, R383/A-2 (参考図書室開架)
16. 永遠のエレガンスを求めて / 鹿島茂  
東京 : 六耀社, 2010 請求記号●J125-124

### <劇場 (オペラ、バレエ、演劇) の衣装>

17. Histoire du costume au théâtre : depuis les origines du théâtre en France jusqu'à nos jours : Ouvrage orné de vingtsept gravures et dessins originaux tirés des archives de l'opéra et reproduits en fac-similé / Adolphe Jullien.  
Paris : G. Charpentier, 1880 請求記号●C6-600
18. Shakespearian costume for stage and screen / by F.M. Kelly ... with nine plates and ninety three line drawings.  
London : A. and C. Black, 1938 請求記号● J62-335
19. Cinq peintres et le théâtre: décors et costumes de Léger, Coutaud, Gischia, Labisse, Pignon.  
Paris : Éditions Cercle d'art, [1956] 請求記号●J74-168
20. Historic costume for the stage / by Lucy Barton ; with colour frontispiece and 76 pages of drawings by David Sarvis.  
London : Black, c1961 請求記号●J74-052
21. 舞台衣裳入門 : ショーの舞台を飾るコスチュームのプランから公演まで / 真野誠二著  
東京 : 美術出版社, 1977 請求記号●J62-258
22. Russian theater and costume designs from the Fine Arts Museums of San Francisco : catalogue / prepared by Nikita D. Lobanov, Nina Lobanov, and Aimée Troyen ; introd. by John E. Bowlt.  
[San Francisco] : The Museums, c1979 請求記号●C45-728
23. Documents pour l'histoire du costume de Louis XV à Louis XVIII / texte par Gaston Schefer. Paris : Prometheus, 1982 請求記号●J58-965~969
24. ワダエミの衣装 / ワダエミ著  
東京 : 求龍堂, 1996 請求記号●R771/W (参考図書室開架)
25. 舞台衣裳のデザイン / 緒方規矩子著 ; 栗山昌良, 佐藤信, 田中一光編  
東京 : 六耀社, 2000 請求記号●J91-878
26. 西洋コスチューム大全 : 古代エジプトから 20 世紀のファッションまで / ジョン・ピーコック著 ; [バベル・インターナショナル] [訳]  
東京 : グラフィック社, 2010 請求記号●R383/P (参考図書室開架)

### <オペラの衣装図>

27. Costumes des ballets du roy : archives de l'opéra XVIIe siècle : avec une notice de M.C. Nutter : 20 planches en couleur / par A. Guillaumot fils. Paris : Monnier & cie, 1885

請求記号●C53-277

28. Les costumes de l'Opéra, / par Carlos Fischer  
Paris : Librairie de France, [1931] 請求記号●C12-466
29. Erté's costumes & sets for Der Rosenkavalier in full color / with an introd. by John Cox.  
New York : Dover Publications, 1980 請求記号●C34-857
30. Opéra côté costume / texte de Martine Kahane ; photographies de Jacques Moatti.  
Paris : Editions Plume-S.N.A.B, c1995 請求記号●J84-314
31. Opéra de Paris. Costumes / 田原桂一 [写真], マルティーン・カーン著  
東京 : 文献社, 1995 請求記号●C61-117

#### <パンフレット表紙、ポスターの画像>

“Pagliaccio costume dated 1600”, Pagliaccio costume dated 1600 drawn by Maurice Sand, published in 1860. Commedia dell' Arte character. Character in Ruggero Leoncavallo 's opera Pagliacci.

出典 : Britannica Image Quest, File Name 113\_916523-W.jpg

●展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2013/8/29 編集●国立音楽大学附属図書館広報委員会 : 撰正弘・田村和子